

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修

## 「教育支援活動コーディネーターの育成及びスキルアップ研修」

日時:平成30年7月24日(火) 会場:三沢市国際交流教育センター 受講者数:16名  
日時:平成30年7月25日(水) 会場:青森県総合社会教育センター 受講者数:14名

青森県の未来を担う人財である子どもたちが心豊かでたくましく成長するためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、教職員、保護者、地域住民が連携・協働し、社会全体で子どもたちを育むことが大切であるとの考えから、学校と地域住民・企業等をつなぐ役割を担うコーディネーター等に対し、効果的な活動方法や多様なニーズへの対応方法など、更なるスキルアップをねらいとして実施するのが本研修です。

本研修は今年度より県内6教育事務所管内のうち、1年に2管内を目安として全管内で行う予定としています。教育支援活動推進員や学校支援コーディネーター、教職員、PTA関係者、さらには現在の教育事情に興味のある方々を対象に、最新の教育情報やコーディネートのスキルアップを目指す基本を学ぶ内容となっています。

今回の講師は、「自分から 自分らしく みんなとともに 社会をつくる人を育てる」をミッションに掲げ、新潟を拠点に活動しているNPO法人 **みらいず works** 代表理事の学びクリエイター 小見まいこ氏を迎え、講義・演習を通じて御指導いただきました。



講師 小見 まいこ氏

### 1 講義「今、求められる地域と学校のつなぎ役」



まずは、導入として今の自分の課題を明確にするワークを行いました。「何を学びたいと思っているのか」、「何を明確にしたいと思っているのか。」など、今の思いをできるだけ多く書き出し、学びのプロセスを明確にするためその中から強く思うものを2つだけ選び出しました。これにより、「自分は何が分かっているのか」、「どんな力を身に付けたいと感じているのか。」が意識され、主体的に学ぶ心の準備を整えることができました。

その後、教育支援活動コーディネーターの役割や、コーディネート力・ファシリテーションスキルの基本について、また人口減少や技術革新、グローバル化など社会や地域の変化を受けて学校や教育が変化していること、そのため次期学習指導要領ではどのような方向性が示されているのか、さらには「地域学校協働活動」とは何かなど、詳細にわたり御講義いただきました。

### 2 実践事例発表

コーディネートの実践事例として、青森県教育支援プラットフォーム上北地区実行委員会より**名久井正廣氏**、同じく東青地区実行委員会より**吉田秀子氏**に、活動の実際を発表していただきました。

主にキャリア教育支援に関わって、企業選択や学校関係者との打合せポイント、さらには効果的にコーディネートを進めるヒントなど、詳細にわたり発表してくださいました。受講者のアンケートには「身近な企業の協力が得られ、素晴らしい活動だなと思った。」、「具体的な事例を聞くことができ、参考になった。」、「コーディネートについての大変良いヒントをいただいた。」、「話し合う場を作ることの大切さが大変良く分かった。」等の声がありました。

## 【名久井氏の発表より】



- ①活動のねらいが何よりも大切。そこがぶれてしまうと、効果的な活動ができない。
- ②コーディネートには学校・企業双方の都合があるため、時間がかかるもの。ゆとりをもって対応することが大切。
- ③打合せは、主に電話やメールでのやりとりになってしまうが、極力顔を合わせるこ  
とが効果的な運営につながる。

## 【吉田氏の発表より】



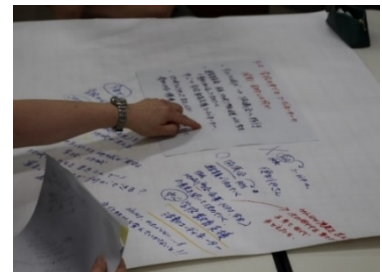
- ①職業体験のコーディネートでは、企業の善意によるところが大きい。誠意ある対応と確認が大切である。
- ②企業選択にあたっては、子供たちの希望だけで決めたり、企業名だけで決めたりするのではなく、活動のねらいを理解しながら選出していく。
- ③次世代の子どもたちを育てるために「繋いで繋げて繋がつて」の意識が大事。

## 3 演習「ファシリテート力やコーディネート力を高めるための演習」



講義の導入で受講者各自が明確にした課題解決に向けて、演習に臨みました。ここでは、似たような課題を持った受講者でグループをつくりました。そのグループの中で、みんなの意見を引き出し、話し合い活動がスムーズに進むようサポートするファシリテーター、出された意見を「見える化」して活動が深まるようにサポートするライター、話し合った内容を他グループの方に紹介するプレゼンターに分かれ、個々の考えを共有・発散・探究し、大切なことを確認しながら、収束させていきました。

対話する上で大切なポイントとして、どんな意見も受け止めること、また、意見を広げ深める質問をすることなどが講師から示され、それに沿った対話を通じて、ファシリテート力を高めていきました。さらに、話し合ったことを発表する場面では、全受講者の視線が集まる中で発表するのではなく、グループの中に一人プレゼンターを付け、他グループの方々に紹介するといった方法を用いました。これには「発表するという大きなプレッシャーが和らぐ。」等の声上がり、新たな手法を身に付けた喜びがうかがわれました。



演習を通じ、各々の抱えた課題についても解決策や方向性も明らかにでき、受講者にとって満足感を得ることができた研修となりました。

## 4 受講者の声

- ・教育がこの先、どの様に変わっていくのかが分かりました。また、聞き方のコツ、引き出し方のコツが分かりました。
- ・コーディネート力、学びのデザイン力、ファシリテーション力をというものを考えながら活動していきたいと思えます。
- ・自分自身の問題意識を明らかにした上での講義でしたので、具体的にどう考えればよいのか、思いあたることが多くありました。
- ・子ども達や地域を支えていくのは「人・つながり」。事例発表を聞いて、様々な方面からつながることにより「大きな力・希望」になると思いました。

